

# 吹田操車場跡地 健康・医療の まちづくりに向けて

地方独立行政法人 市立吹田市民病院

# 市民病院を取巻く環境

## 1 医療機関が集積

吹田市には、15の病院と285の診療所がある。(大阪府医療機関情報システムより)  
全国平均と比べ 一般病床数は多く、療養病床、リハビリ病床数は少ない。

## 2 市民が24時間の救急受入を希望

平成22年度吹田市市民意識調査によると、市民病院に期待する役割として「24時間の救急医療」が82%をしめている。

救急受入れ実績(平成23年度) [平成23年度吹田市福祉保健部データ]

救急車利用 吹田市内17,224件、うち市民病院4,558件(約26%)

救急車以外 吹田市内31,089件、うち市民病院15,274件(約49%)

## 3 今後、がん、循環器疾患、呼吸器疾患、整形の疾患が増加

# 新市民病院整備の基本方針

## 1 救急医療の充実

- ①救急専用病床の設置
- ②救急診療科の設置
- ③災害時等における行政や地域の医療機関との連携・協力による医療提供

## 2 高齢化に伴う疾患への対応とリハビリテーションの充実

- ①高齢化に伴い増加する疾患への対応
- ②急性期のリハビリ及び回復期のリハビリを充実(回復期リハビリテーション病床設置)

## 3 地域の医療機関や介護事業等との連携推進

## 4 政策医療と健全経営の両立

## 5 マグネットホスピタルの実現

研修制度の充実や自己研鑽の支援を充実するなど医療スタッフの働きやすい環境整備を図る

# 新市民病院の整備規模・予定地

## 1 整備規模

(1) 診療科目(合計22診療科 下線部は新設診療科)

内科、循環器科、神経内科、消化器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、腎臓・泌尿器科、放射線診断科、リハビリテーション科、麻酔科、精神科、心療内科、病理診断科、歯科(障がい者)、救急診療科(総合診療科)、放射線治療科

(2) 病床規模 431床(救急専用病床、ICU、回復期リハビリテーション病床含む)

## 2 整備予定地

(1) 整備予定地

北部大阪都市計画事業吹田操車場跡地土地地区画整理事業区域内4街区

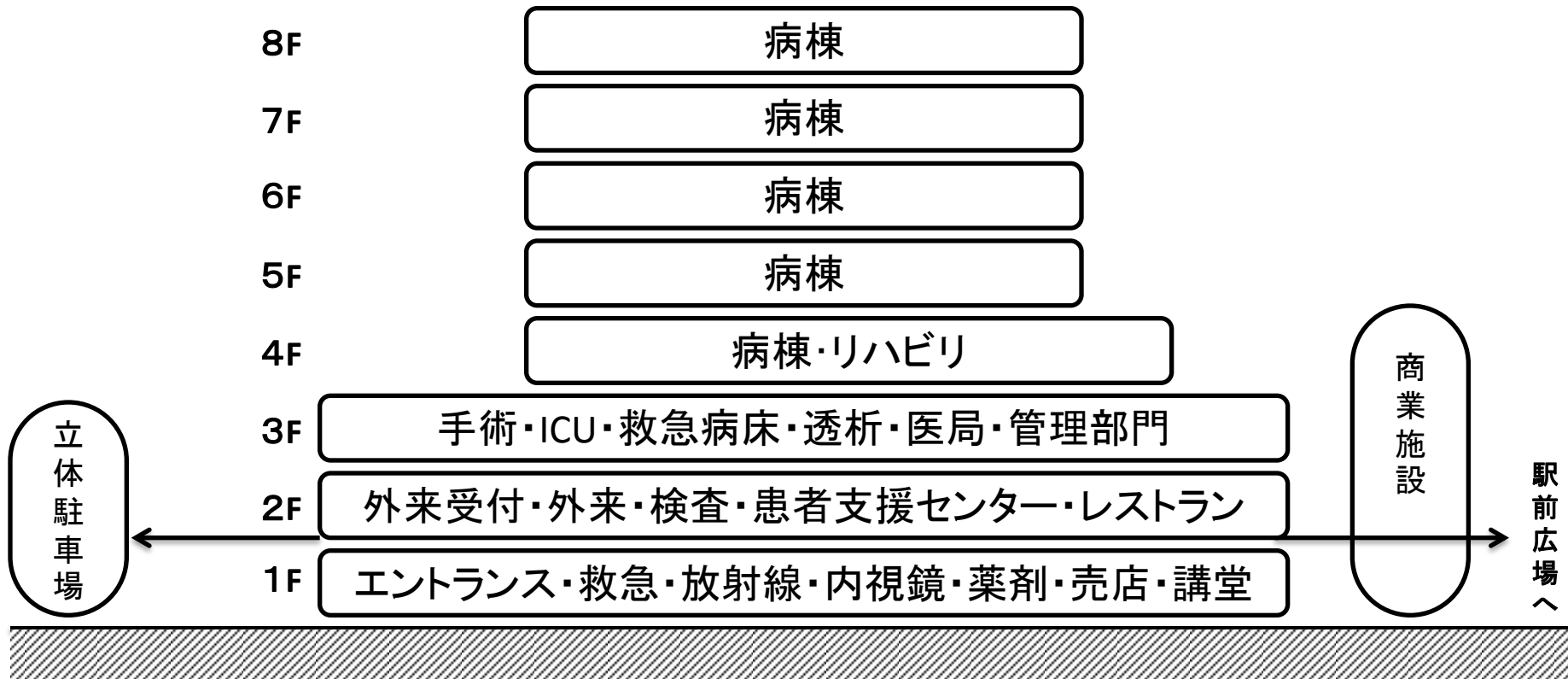
(2) 面積

約18,000m<sup>2</sup>



# 新市民病院 基本設計進捗状況

## 新市民病院 階構成(案)



# 健康・医療のまちづくりへの貢献

## 1 まちづくりとの調和

市民病院の吹田操車場跡地への移転後については、現在担っている地域の中核病院としての役割を引き続き担うとともに、吹田操車場跡地で進められている「健康・医療のまちづくり」をコンセプトとしたまちづくりの中にあつて、総合病院である市民病院は国立循環器病研究センター(特定機能病院)と機能分担することにより、同センターと共にまちづくりの中心的な役割を担っていくことができると考えている。

## 2 「学び」や「体験」の場の提供

国立循環器病研究センターの循環器病予防医療の取り組みとともに、総合病院である市民病院は、市民公開講座等を開催し生活習慣病予防など様々な医療に関する情報発信を積極的に行うことで、市民の健康増進に寄与することが出来ると考えている。またこうした取り組みにより「健康・医療のまちづくり」の具体化に貢献できると考えている。

## 3 まちづくりへの積極的な参画

国立循環器病研究センター、医療研究機関、医療関連企業、テナント等により形成される国際級の医療クラスターの中にあつて、市民病院は様々な分野での課題について各関係機関と連携し取り組むことで、「健康・医療のまちづくり」の推進に貢献できると考えている。

# 吹田操車場跡地を中心とした地域連携

## 地域の診療所との医療連携の方向性

市民病院が吹田操車場跡地へ移転した後においても、地域の中核病院として役割を果たすためには、診療所との連携は不可欠であり、また、高齢化社会において地域包括ケアシステムの構築が社会的な課題となっている状況からも、診療所とより一層の連携を図ることが重要であると考えます。

### 1. 病診連携の推進

- ・紹介患者の診察や検査予約の他、可能な分野での連携を検討する。
- ・市民病院での治療が終わった患者及び、病状の安定した患者の逆紹介を推進する。

### 2. 顔の見える連携の推進

- ・市民病院の医師等職員が地域の診療所を積極的に訪問する。
- ・臨床セミナーなど、院内のセミナーを診療所の医師等に開放する。